

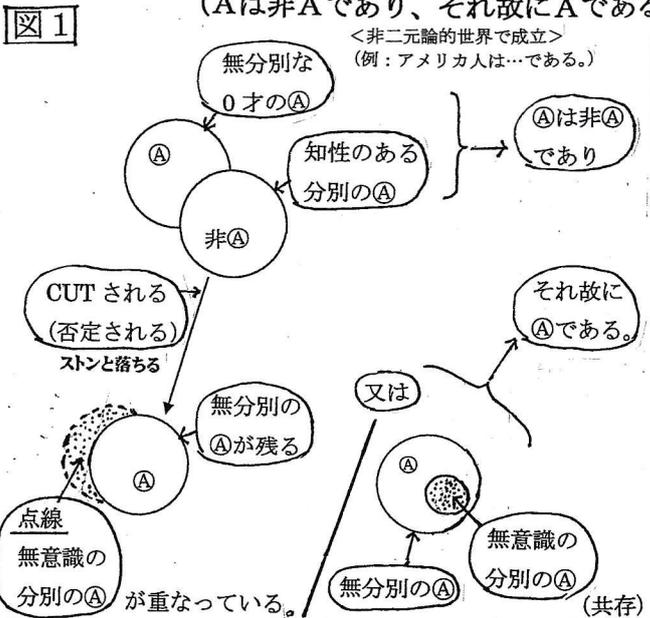
鈴木大拙・「即非の論理」の図解

(鈴木大拙：1870~1966)

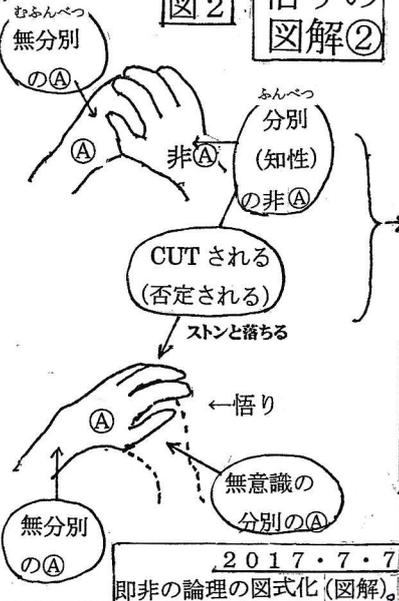
(即非の論理の悟り)

(Aは非Aであり、それ故にAである)

<非二元論的世界で成立>
(例：アメリカ人は...である。)



悟りの図解②



西田哲学

(西田幾多郎：1870~1945)

禪を哲学的に論理化した。

純粹経験とは、

知性のカーテンがストンと落ちた感覚
(主観と客観が一体)

絶対無=空

<即非の論理>

…否定即肯定・肯定即否定
(非二元論的世界で成立)

ぜったいむじゅんてき・じこどういつ

絶対矛盾的自己同一

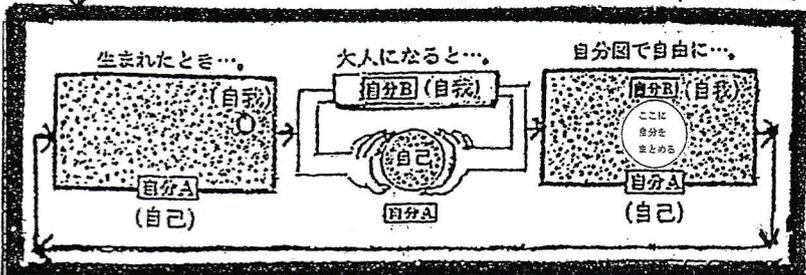
(無意識の意識・無分別の分別)

場所的論理

<すべては絶対無の場所に置かれている>

2017.7.7
即非の論理の図式化(図解)。

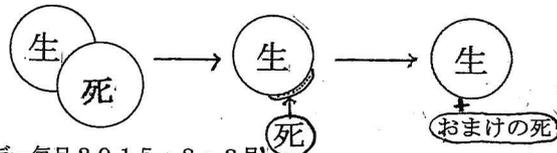
自分図(Jibunzu)…自己と自我の関係 (2009/4/8)



生が終われば、死も終わるのだ。(寺山修司)

(生が終われば、おまけの死も終わる)

- ①生と死が対立
- ②生の終わりを 死と定義
- ③生のおまけとしての死



(サンデー毎日2015・8・2号)
五木寛之のボケない名言・参考

ジブンズ <Jibunzu法>

<悟りの体験方法>

そこで先ず...

①気付きの悟り
なるほどそんなこともあるのかなあ...と思う。

次に

②実体験の悟り

- 1、禪の修行 (数年~10数年)
- 2、Jibunzu (ジブンズ) 法
- 3、Suton (ストン) 法

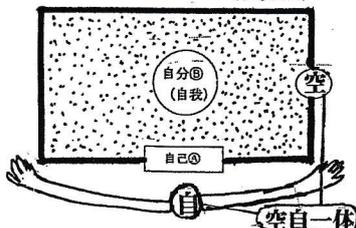
③生死の悟り(生死一如)...

生死の悟りは実体験の悟りでも完了する場合があるが、そうでない場合もある。

(死ぬ覚悟...死の受容)

→「瞬生五十年」・「生死は今正にここに有り、怠らず努めよ」...等可。

(自分図)



<自分Bを指で隠すと自我Bが消える>
<非二元論的世界>

自由な宇宙空間が
ワーと広がる感じ。
(あるがままの無分別な
現実世界・絶対現実)

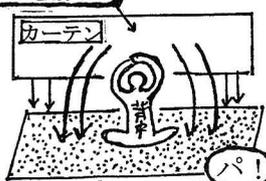
(西田の純粹経験の場と言える)

自分図法は、
書きなぐり発散が必要です。

ストン <Suton法>

ジ(自我)、ブ(分別)、
チ(知性)のカーテン
がストンと落ちる!

ストンと落ちる



<非二元論的世界>
...道元の「身心脱落」に似ている。

(色々な心の重荷がストンと
落ちて、あるがままの広い
自由な草原が広がる感じ。
(無分別の空の大地)

Suton法は、
誰でも体験できます。

<二元論的世界>
Chisei(CS)



ストン(Suton)と落ちて
空っぽになる。

<非二元論的世界>

空っぽに気付く→悟りの瞬間!

無意識を意識すること。
(非連続の連続・無分別の分別)

☆実際はこの意識もない。

半眼で坐禅する。→ボウとし(見)ている。
→頭が空っぽの状態。→悟りの状態。
(坐ることが悟りである。...とも言える。)

参考資料：死生学研究会資料 ④空(くう)について、⑩原始仏教(釈迦の思想)と日本の大乘仏教、

⑪自力と他力(空と悟り) ⑫哲学と宗教は、死をどのように捉えたか?

参考文献：現代日本思想体系8・鈴木大拙(筑摩書房・絶版)、哲学用語入門(高間直道著・大和書房)、
すらすら読める正法眼蔵(ひろさちや著・講談社)、続・哲学用語図鑑(田中正人著・プレジ
デント社)、死に直面したあなたに(内田 誠著・死生学研究会)

©2017 死生学研究会

死生学研究会
Thanatology Research Center
TEL 042-624-1355